

躍進

Y A K U S I N

No. 17

株式会社 加藤組社内報「躍進」

発行日/平成5年1月1日

発行/株式会社 加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18-6 TEL (0185)25-3001(代)
FAX (0185)25-2234



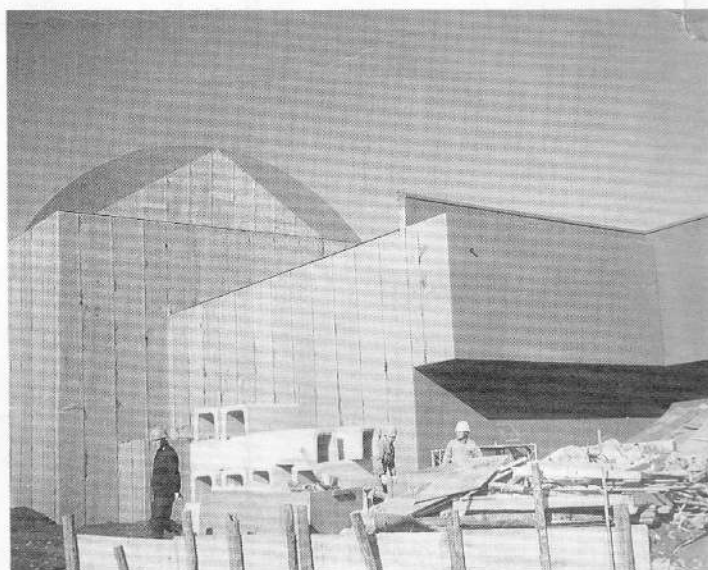
KATOGUMI CO.,LTD

株式会社 加藤組

光 飯 商 事 株 式 会 社 日 本 ア ス コ ン 株 式 会 社
秋 田 プ ロ ッ ク 工 業 株 式 会 社 秋 田 建 設 運 輸 株 式 会 社

男鹿本山(海拔715m)で
明るい未来をキャッチする

— 加茂TX地区局舎建築工事現場 —





新しい年を迎えて

協力会会頭 加藤 義孝

新年あけましておめでとう
ございます。
鴨長明が鎌倉時代に書いた
随筆「方丈記」のなかに「ゆ
く河の流れは絶えずして、し
かも、もとの水にあらず」と
いう有名な一節があります。
新年というものも、これと
同様に、年を越しては新しい
年を迎えるという繰返しでは

ありますが、平成五年の元日
は、生涯に二度と迎えること
のできない、ただ一度の元日
であると私は思います。
貴重な一日であればあるほ
ど、後悔のないように積極的
な活かし方をしなければなり
ません。
元日の朝に、この一年の目
標や計画を立てる人も多いこ
とと思います。新年を迎え、
新たな気持で、今年もやるぞ
という意気込みが湧いてくる
でしょう。しかし、元日だけ
を特別視することは間違いで
す。一年の始め、一か月の始
め、そして一日の始め、いず
れも大切であります。元日の
朝だけ目標や計画を樹てるの
ではなく、常に元日の朝を迎
える時のように、新たな気持
と気魄をもって、その一か月
その一日を過ごすように心掛
けるべきであります。
平成二年の十一月に、第七
回「建設業に働く若者からの
メッセージ」に応募した原田
康文君の論文が労働大臣賞に
輝きましたが、その中で「現
場は生きている」という表現
があります。皆さんもご存じ
のように、現場というものは
同じように見えても、日々変
化しているもので、私も経験
があります。これにどのよう
に対処できるかが、大事なこ
とであります。

平成5年度 基本方針



OA化で構造改善を図り より高いより良い

企業革新を目指そう

社長 加藤 義孝

皆さん、明けましてお目出
どうございます。
ご家族お揃いで和やかな正
月をお迎えのことと思います。
昨年は大きな事故もなく、
工事施工もまずは順調に推移
しました。皆さんのご努力に
対し感謝申し上げます。
数年間続いた暖冬傾向も終
わり、今年も例年どおりの寒
社歌にもありますが、日々
新たな気持で挑戦しなければ
なりません。
アメリカの第四十二代大統
領クリントンは「改革の時」
といい、宮沢内閣は「変革と
実行」を強調しておりますが
世界はいま新しいなにかを求
め、それに期待しております。
建設業は、物を造る喜びと
やり甲斐を与えてくれる仕事

い冬、雪の多い冬になるとい
う予報であり、また、建設業
を巡る諸条件は極めて厳しい
ものがありますので、心構え
を新たにしてお対応していただ
きたいと思っております。

OA機器 の活用

当社では、昭和五十九年か
ら電算機を使用しており、他
社の電算化プログラム作成な
どは軌道に乗ってきているも
の、肝腎の当社業務では、
給与計算、原価管理、資材管

革新の ときは今

最近、国内だけでなく、国
際的にも、政治、経済など、
あらゆる面で改革、変革、革
新が求められております。
建設業界もこれを受けて通
ることはできません。三Kと
いう悪評の打破はもちろん、
従業員の高齢化、さらには日
進月歩の技術革新に対応する
ためには、考え方を換え、企
業構造を改善しなければなり
ません。その時は今です。

より高く より良く

すべてのことに最高、最善

を求めて努力することは当然
ですが、一気に、その位置に
到達することは困難でありま
す。だからといって諦めては
進歩がありません。一歩でも
半歩でも前進するよう努力し
なければなりません。
ベストを目指しながら、ベ
ターを積み重ね、お互いが協
力し合っていくことによつて
新しい時代に適合する建設業
への革新が図られることと思
います。

すべての原動力は健康です。
皆さんも健康には十分留意
され、今年も精一杯頑張つて
いただくよう期待いたします。

こんには 赤ちゃん



土木課 伊勢谷 寿さんの長男
靖久 ちゃん

平成四年十月二十七日生



港 湾 課
原 田 茂
8.12.27生

私は昭和五十二年に入社しました。そして一貫して港湾の仕事に従事してきました。

当時の起重機船は、今の半分位の大きさでしたが、入社翌年には百屯吊りの起重機船が導入され、さらに五十五年には百二十屯吊りという、素晴らしい船が入り、港湾の仕事は最盛期になりました。海上工事は、今や大型船の時代になり、入社して僅か十五年の間に、人も船も入れ替り、現在では若い人達の影でアドバイスの存在になっておりますが、まだまだ若い者には負けないというファイトをもっております。

海が荒れて危険な時などは昔の若い血がさわぎ、若い者に大声で注意することがあります。

昭和五十六年に四回目の西年を迎えたときは、私の体力も気力も最高に充実しておりました。

今年五回目の西年を迎えたということは、定年の年という事です。この一年は、最後の力をふりしぼって加藤組港湾課のために頑張ります。



建築課長
伊 藤 満
32.10.3生

早いもので三度目の年男になりました。

人生の中でも、一番脂が乗り、充実した年代になりましたので、今まで以上に社会に対する責任を痛感しております。

二度目の年男のときは、加藤組に入社した翌年でしたので、早く会社に慣れよう、早く学問と現実とのギャップを埋めようと無我夢中であったと記憶しております。

西は、十二支のなかで、唯一とつ翼を持つている動物です。大空を飛び回るといほどではないにしても、他の動物よりは一段高いところから世の中を見渡すことができるのです。西年生まれの私として、たいと思います。

寧為鶏口 勿為牛後

西年生まれの抱負

鶏口とは鶏の口先きで、先頭とか小さい集団の責任者の意味。牛後とは牛の尻で、大きい集団の最後尾という意味です。

「寄らば大樹の陰」という諺もあるように、人間は誰でも大きい集団に入っておれば、たとえ最後尾でも、という安易な考えをもちやすいものです。

しかし、小さい集団でも、その先頭に立つて引張っていくという積極さ、ファイト、リーダーシップが大事です。

このことが、お互いの信頼関係を増し、会社の活力にもなります。



土木係長
石 川 守
32.3.14生

本アスコンの試験主任をしていた時で、生コンクリートのJIS表示許可工場の資格を通産省から認可を受けた年での印象の強い年でした。

その後、私は土木課に配属され、数多くの現場を担当してきて、それぞれに思い出は多いのですが、今年には特別の年になると思います。

今年、建設省発注の茨島交差点改良工事を完成させる年なのです。



建築係長
金 子 憲 行
32.9.4生

三回目の西年を迎えました。特別の感慨はありません。

ただ、相当長い時間生きてきた訳で、その間にどんなことをしてきたか振り返っております。といっても、やっと人生の半分経過した程度ですから、これまでの経験を今後の人生に活かしていかなければならないと考えております。

今までの私の考え方、物の見方、行動など、どれをとってみても直線的かつ単一的であったと反省しております。

直線的ということは、若者の特権みたいなものですが、これからは、もっと多角的に視野を広げて、全体的に包括的に物事に対処できるようにしたいと思っております。

直線は強いようですが、横からの力に弱く、円形は、トンネルやアーチダムにも見られるように、多方向からの圧力に負けない力をもっております。円形といっても、単に物事を丸くおさめるという意味でなく、前向きに、前進的な考え方で進んでいこうと、年頭に当たって決心しているところでもあります。



秋田建設運輸
鈴 木 頼 男
32.1.9生

皆さんは、早寝早起きをしていますか。

私は西年生まれのせいばかりではなく、早寝早起きを励行しております。お蔭で運転中に睡魔に襲われたことは一度もありません。

昔から、良く寝る人は良く働くといわれておりますが、これは、睡眠、特に夜の早い時間帯の睡眠は、健康維持のため大切であることをいっているもので、この睡眠によって健康のリズムが整ってくるといわれております。

私は昭和五十五年に入社したその翌年が西年のはずでしたが、その時の認識が鮮明でありません。入社したばかりで勤務のことで一杯だったからでしょうか。

今年生まれ三回目の西年、入社して十四年目を迎えることになり、年齢的にも経験上も、会社の中堅としての認識をもちたいと思っております。年男として、職場の安全と自分の健康を維持し、快適な職場環境を目指して、精一杯頑張りますので、よろしくご指導ねがいます。

現場レポート

自衛隊局舎建築工事

建築係長 金子憲行

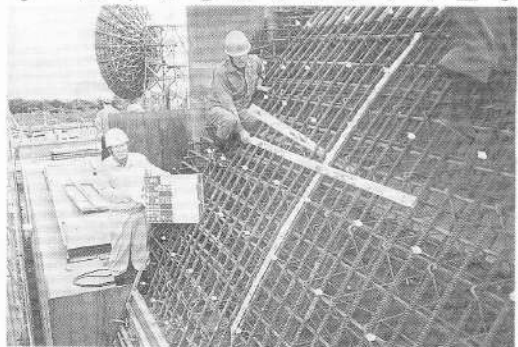
鉄筋鉄骨コンクリート建築
一部二階建 延四一九㎡
覆土 二、七〇〇㎡ 張芝工



男鹿本山の南肩（標高六五〇m）に航空自衛隊加茂分屯基地の局舎建築工事を受注したのが昨年四月の始めでした。その担当を命じられたときは、工事場所、内容を考えて、一瞬、身の引き締まりを感じました。

特殊な用途（詳細不明）に供する建物であるため、鉄筋鉄骨コンクリート建築とはいもの「鉄筋ユニットレーシング工法」という未経験の工法であるため、四月下旬に関係者が青森県の三沢基地に見学に行ってきました。さて、実際に着工してから

は、どんな形で出来上がるか心配したものです。が、年末までに本体の形が九分どおり完了し安堵の胸をなでおろしながら新年を迎えることができました。



それにしても、この工事が順調に進捗したのは、とび土工を担当した門間工業、鉄筋の進藤鉄筋と丸谷オート、鉄骨の秋田造船鉄工、型枠の邦栄建設などの協力各社の献身的な協力によるものであり、感謝に耐えません。

冬期間は一応現場は休みとし、三月上旬に再開しますが再開後は、よう壁を作って建物のほとんどに覆土し、芝張になります。麓から三千㎡

近い土の運搬という大変な作業も控えています。山の上での工事ですから随分苦労しました。天気の良いときは、山頂から日本海を眺めながらの仕事ですから、気分は爽快です。しかし、こんな日は少ないのです。

ロシヤから直接吹きつける風は、夏から一気に冬になつてしまいます。それに霧の日が多く少し離れると全く視界が失われ、作業者がどこにいるのか、慣れているはずの事務所と現場との通路も見失いがちです。

工事が順調に進んでいないときなどは、文字どおり孤独感におそれ、あせる気持ちと一緒に、減入ってしま

う日が続きました。そんな時は、補助員である

長身の小熊君に随分助けられました。彼の茫洋とした姿を見れば、細かいことを心配している自分の姿が恥ずかしくなり、五月の完成を目指して、再度挑戦する元気が湧いてきたものでした。



小熊 憲史
彼の茫洋とした姿を見れば、細かいことを心配している自分の姿が恥ずかしくなり、五月の完成を目指して、再度挑戦する元気が湧いてきたものでした。

現在実行中の 主なる工事現場

- 能代港灰捨護岸建設工事
（一）護岸延長三〇四m
工期 五月三十一日
現場代理人 小野俊剛
- 現場代理人 成田義則
（二）遮水シート布設十四万㎡
工期 六月三十日
- 茨島交差点改良工事
管渠、排水、舗装、歩道他
工期 三月三十一日
現場代理人 石川 守
- 地方港湾改良工事（戸賀）
浚渫、消波ブロック、方塊
工期 一月二十九日
現場代理人 渡部邦明
- 秋田湾流域下水道工事
（若美町道村）
延長二〇〇m
工期 三月十九日
現場代理人 原田康文
- 港湾防災工事（戸賀）
根固方塊製作据付
工期 二月十日
現場代理人 佐々木敏雄
- トンネル漏水防止工事
D G板張付（夜間工事）
工期 一月二十四日
現場代理人 松田寛治
- 秋田湾流域下水道工事
（若美町本内）
延長一一六m
工期 三月十九日
現場代理人 三浦喜代見
- 沖田台地区かんがい排水
排水路一六二m
工期 三月十二日
現場代理人 伊勢喜久仁
- 大倉地区水田排特工事
排水路二四六m
工期 三月一日
現場代理人 伊勢谷 寿
- マリーナ施設整備工事
防絨材四二〇㎡ほか
工期 三月十九日
現場代理人 鈴木耕一
- 吉田川橋下部工事
橋長三二五m
工期 八月三十一日
現場代理人 伊藤 満
- 秋田新都心近隣公園整備
盛土、排水溝、東屋建築
工期 三月十二日
現場代理人 加藤久人
- 県営住宅建築工事（内子）
二棟二四八㎡
工期 三月十日
現場代理人 太田健一
- 地方港湾改修工事（塩浜）
現場代理人 渡部邦明
- 港湾防災工事（戸賀）
現場代理人 夏井直弥
- 重要港湾改修工事（船川）
現場代理人 佐藤雅宜
- 海岸防災林造成工事
現場代理人 鈴木耕一

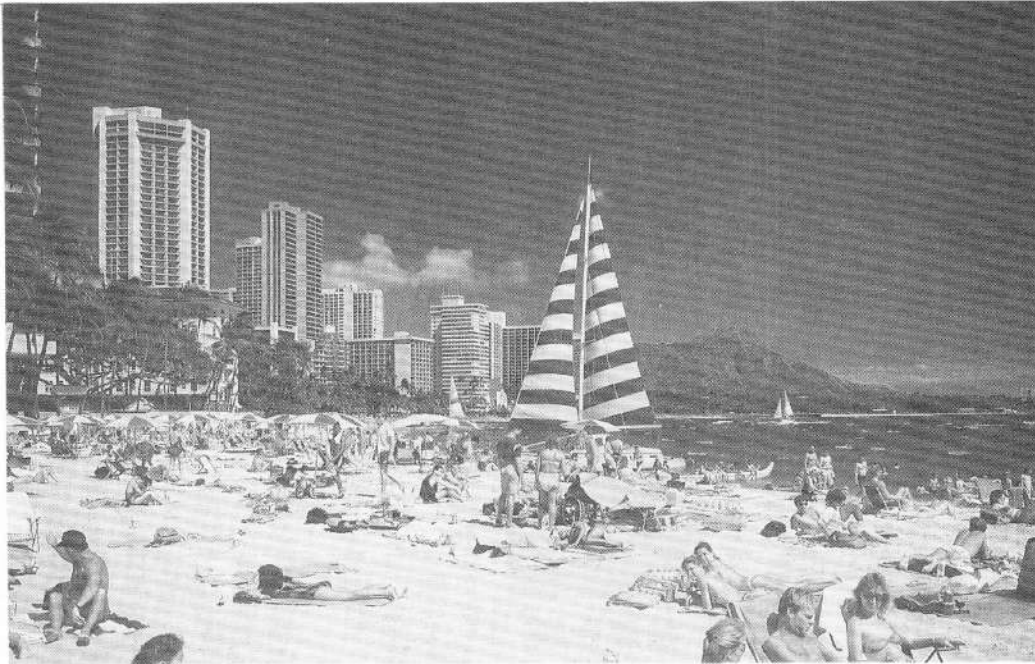
年末に完成した工事

- 現場代理人 鈴木耕一

社員旅行

心はすでにハワイの空へ

4泊6日で初の海外研修旅行



恒例の社員旅行も、土曜、日曜を利用しての一泊二日行程では、行先が限定され、マンネリ化しつつあったので一昨年は、車中泊も含めて、二泊三日に格上げし、北陸路を駆け巡り、好評を博しました。

そして今回、一気に海外旅

往へと大躍進しました。憧れのハワイ。待ちに待ったハワイ旅行が、二週間後に迫りました。皆さん、心の準備はできましたか。体調は万全でしょうか。北緯二十度のハワイ諸島は常夏の国です。時差が九時間

で、日付変更線を越えるの旅行ですから、体の調子が悪いと折角の景色も、雰囲気も味わうことができません。第一班は一月十六日に出発し、二十一日に帰ります。第二班は、第一班が帰った翌日の二十二日に出発し、二十七日に帰ります。正月料理、お屠蘇も控え目にして体調を整えて、初めての海外研修旅行を十分楽しめよう心掛けましょう。

旅行日程

第一日

朝 本社発(バス)

昼 秋田空港発(航空機)

夜 成田空港発(航空機)

第二日(日付は前日と同じ)

朝 ホノルル着

レイサーピス。市内観光

第三日

オアフ島観光

ダイヤモンドヘッド

パイナップル園

パールハーバー

第四日

ポリネシアン文化センター

第五日

自由行動

各種オプションで

第六日

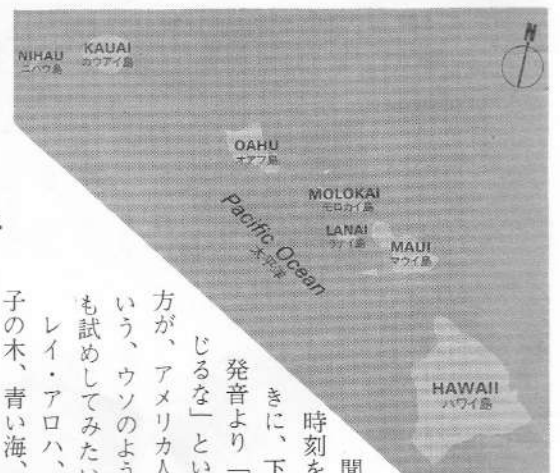
朝 ホノルル空港発

昼 成田空港着(日付変更)

夕 羽田空港発

夜 本社着(八時頃)

ハワイ諸島



総務課 杉本 三津子

最近では海外旅行ブームとかで、学生や若いOLがどんどん海外旅行をしているという話は聞いていますが、いざ自分のことになると「ちよっと東京見物に」というわけにもいかず、次元の違う話だと思っていました。それが、入社二年目に、社員旅行でハワイへ行けるなどとは、全く夢のようです。初めてパスポートを手にし運転免許証をもらったときと同じように感激しました。ハワイは日本人旅行者が多く、日本語でも不自由しないと聞いていますが、高校で習

つた英語が通じるかどうか心配しています。誰かから聞いたように時刻をたずねるときに、下手な英語の発音より「掘った芋いじるな」という日本語の方が、アメリカ人に通じるといふ、ウソのような本当の話も試してみたいと思います。レイ・アロハ、ピキニ、椰子の木、青い海、白い砂などがミキサーにかけられたような夢をみて、びっくりして眼をさますこともあります。弟からは、毎日のようにお土産の希望が次々にでてきます。一ドルが何円だったかなどど柄にもない心配もしております。そのハワイ旅行が二週間後に迫りました。ドキドキ、ワクワクの毎日ですが、あまり有頂点になつて仕事を間違えたり、事故を起こしたりしないよう、注意に注意を重ね、期待に胸をふくらませている毎日です。



新時代への対応を

平成4年度 協力会総会盛大に開催

下間会長ほか三役は留任

平成四年度の協力会総会は十二月二十三日、天皇誕生日の佳き日に、新雪に輝く加藤道場で開催されました。
 会社関係物故者の慰霊のあと、定年退職の小坂郷太郎さんに感謝状を贈呈し、次いで永年勤続、一般、安全の各表彰を行いました。
 議事に入り、事業計画案、収支決算、予算案などを満場一致で可決し、役員改選では

下間会長以下の三役は、すべて留任し、新年度の活動を進めることとしました。
 正午からは会場を「きりん亭」に移して懇親会となり、よく食べ、よく飲み、よく歌って大いに活力を養いました。



下間会長

今年には道路公団の工事を中央大手と企業体を組んで、無事完成させ、関係機関から感謝され、面目を保った。
 秋田港、能代港などの港湾工事をはじめ、各現場作業も順調に進み、皆さんの努力に感謝している。
 平成五年は、OA化をさらに進め、人と物と金の有効活用を図り、安心して働ける職場づくりをする考えである。



加藤会頭

会長あいさつ(要旨)
 協力会は、その名のとおりの会社の仕事に精一杯頑張っている。現場第一線の作業員については、年齢、健康、技能等を勘案して、通年雇用を考えていただきたい。身分の安定で、さらに頑張れると思う。また、協力会と青藤会を統合し、一本化の形で会社に協力すべきだと考えている。



加藤社長

社長あいさつ(要旨)

協力会は歴史も古く、会社にとって一番大切な会であり総会の今日が一番大切な日である。いろいろの事案を十分話し合い、従業員の問題については、どんな会社に進言し

会頭あいさつ(要旨)

今年もあと数日、長い一年も各節目の経過であり、節目ごとに反省し、同じ誤りを二度と繰返してはならない。
 内需拡大予算で、事業の増加が期待されるが、農産物ばかりでなく建設業も自由化の時代であるので、男鹿という一部分の考え方でなく、視野を広くし、毎日の研鑽を怠らず新年を迎えて欲しい。



謝辞を述べる
小坂郷太郎さん



表彰された方々

安全表彰

一般表彰



原田康文さん
(土木主任)



三浦秋広さん
(建設機械課)



高橋寅之助さん
(建設運輸)



児玉和子さん
(日本アスコン)



鈴木頼男さん
(建設運輸)



安田恒一郎さん
(土木課)



夏井直弥さん
(戸賀出張所長)

十 安全衛生委員会から



健康と安全の優先 交通事故の追放

安全衛生委員長 太田 健一

明けましておめでとうございます。今年も引続いて安全衛生委員長を務めることになりましたので、皆さんのご協力をお願いいたします。

安全衛生委員会は、先頭に立って皆さんを引っ張っていくというよりも、皆さんの安全行動の後押しをする機関ですから、なんといいっても、皆さん自身が絶対に怪我をしないという意気込

みが大切です。平成四年は、作業現場での小規模物損事故が四件ありましたが、労災事故はゼロで済みましたが、ヒヤリ、ハットは随分ありましたので、手放しで喜んでばかりはいられません。が、当社の安全活動、従業員の安全意識が着実に向上しつつあると考えられます。今年はこの傾向をさらに助長していきましょう。

毎年一月には、年間の「安全重点目標」を決めてきましたが、今年からは「安全スローガン」にしました。具体的な安全目標は、これまでどおり各月ごとに定め、年間の安全活動の方向付けは「安全スローガン」として、基本姿勢の確立と、従業員の意識の向上の指針にすることにしました。

皆さんも、この趣旨を十分理解して、常に安全スローガンを唱和して意識を高め、毎月具体的な安全目標が的確に実施できる基盤づくりをして

いただきますと思います。皆さん、今年こそ名実共にゼロ災職場を確立するよう頑張りましょう。

職場環境を整備し 健康と安全確保を 優先させよう。

労働災害原因のトップは、作業者個々人の不安全行動だといわれております。個々人の不安全行動といえ

交通三悪を排除し 職場から交通事故を 追放しよう。

交通事故は、今や社会問題になっており、その防止のためには、企業としても組織的に取組まなければなりません。当社は青藤会を通じて、交

今年、会社として「う見地での環境整備に努め、安全最優先の職場気風を盛立てるよう」にします。皆さんも、この環境に恥じないよう、自らの健康と安全を守るという固い決心で、毎日の仕事に精をだしていただきたいと思

平成4年度 安全標語優秀作



安全は 先取り、実践、再チェック 働く仲間で知恵を出せ
土木課 鈴木 耕一



安全対策は先行投資です。災害が起きてから後始末に追われるようでは、いつまでたつてもゼロ災職場の達成はできません。対策は実行するなかで随時チェックし、みんなが協力し、知恵を出し合っていくことが大切だと思い、標語にまとめてみました。



大きな掛声 機敏な動作
チームワークはわが社の宝
港湾課 佐々木 敏雄



慣れとヤマ勘絶対追放
常に初心で安全作業
日本アスコン 船木 秀悦



紹介 三ツ子ファミリー

代理 長課 土木

伊勢谷 寿さん一家



妻 リツ子さん (31歳)
長女 成美ちゃん (3歳)
長男 靖久ちゃん (2カ月)

伊勢谷寿さんは、昭和五十六年に東北工業大学を卒業して当社に入社し、土木課に配属されて以来、土木一筋に勤務してきました。

現在は土木課長代理として自らの仕事はもちろん、部下の指導、上司との連携など、困難な中間管理職という要職にあつて、文字どおりのリーダーとして頑張っています。

寿さんは、外見からは感じませんが、腕力が強く、当社綱引きクラブの中心選手として、昭和六十二年には全国大会出場の経験をもっておりま

す。この綱引きの経験、一本の綱にスタッフ協力して全力を傾けるといふチームワークが、仕事にも家庭にも活かされているのが、寿さん一家のすべてであるといつてもよいでしょう。

昭和六十三年四月に結婚しました。長女の成美ちゃんは今もなく四歳になり、やつといたずらができ、両親の愛情を一人占めできる頃ですが、もう姉さんになり、靖久ちゃん

の世話をするという成長振りです。

奥さんは主婦専業で、寿さんの働く活力を支えてくれています。スキーが達者で、家族四人が白銀のスロープを滑走する夢を描いています。

加藤組のあゆみ⑱

私が入社した頃

私は昭和三十七年に学校を卒業して、札幌の運送会社に就職しました。

長男でもないし、新天地での可能性を求めるといふ気魄でしたが、やはり生まれ育った男鹿市で働くのが一番だと思つてUターンし、昭和四十六年に加藤組にお世話になりました。

私に与えられた仕事は、通勤バスの運転でした。四十九人乗りの大型バスで、戸賀方面へ行くのが通常のコースで男鹿中を過ぎる頃には満員となり、何人かは立っているという状態でした。それ程作業

員の多い時代でした。今は労働者不足のためか、機械化で小人数でできるためか、通勤バスがガラガラの状態で行っているのを見ると、今昔の感に耐えられません。昔はにがや

かで、活気がありました。バスで作業員の配置を終え

ると、私は湯の尻にあつた砕石場で、夕方まで重機の運転をやりました。その工場長の

の松山長右衛門さんは、温厚な人柄で、部下をどなりつけることはありませんでしたが部下は工場長の気持ちを察して、仕事を先取りしていく状態で、能率が上がりましたが

今では昔のように個性的な上司が少なくなったような気がします。一緒に働いていた大山東治郎さんや佐藤サカエさんは、すでに退職しましたが時々会うことがあり、当時の話などして懐しんでいます。

当時の日給は二千円位でしたが、今とは生活様式が違うので、安かつたとか、苦しかったという実感はありません。

昭和五十八年に資材管理係に発令されるまで、約十二年間、バス運転と砕石場での重機運転をしたその経験を今も大事にしております。

悲しい思い出は、私の結婚

式当日に、私の代りに乗務した運転手が、大型バスで重大事故を起こしたことです。新婚旅行中の旅館のテレビでそのことを知り、啞然とし、自分にも責任がある気がして、旅行中もそのことが気がかりでした。しかし、それだけ事故の重大さと、交通安全の大切さを吐の底まで認識しましたので、あの事故を契機として発足した青藤会活動については、今後も中心になって、運転者の先頭に立つて頑張っていきたいと思つております。

(資材管理係長 近藤秋信)

編集後記

久し振りに雪景色のなかで正月を迎え清々しい気分のことと思います。

すべての色に染まりやすい白に、どういふ未来を描くか、明るく輝かしい一年であることを望みます。

◆ 前社長夫人で、日本アスコン取締役の木村千巴さんが、十一月二十六日に永眠いたしました。前社長を援け、自らも取締役、監査役として、ご母堂と同じように社員を慈しんでくれました。心からご冥福をお祈りします。

◆ 今年改革の年だといわれています。みなさんも時代の流れに遅れないよう、進む方向付けをハワイの星を眺めながら思索してみてください。

長い間
ご苦労様でした
定年退職 4・12・31付
○梁田 耕次さん
○小坂郷太郎さん
自己都合による退職

- 目黒真由美さん 4・8・31
- 大淵 俊子さん 4・9・30
- 小山田春樹さん 4・9・30

明けておめでとうございます。